

平成 27 年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業



タブレットPCを用いたモデル授業

平成 27 年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業〔主催＝(公財)日本武道館・(一財)少林寺拳法連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省・勝浦市教育委員会、協力＝勝浦市立勝浦中学校〕が、6月12日(金)～14日(日)の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、研究者6名、連盟事務局1名、日本武道館事務局3名により実施された。本研究事業は、平成21年度から実施されており、今年度で7回目となる。

1日目(6月12日)

◆開講式



開講式で、(公財)日本武道館三藤芳生理事・事務局長が主催者挨拶に立ち、「これまで3年間の導入時期を経て、本格的に内容を充実する時期に入ってきた。この研究事業でしっかりと

した内容に方向性を固め、少林寺拳法の必修化が成功することを期待している」と述べた。

続いて、(一財)少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員会委員長中島正樹研究者より、「授業の効果について、授業毎にどのような態度の変化が表れるのか、どのような思考の変化が見られるのか、少林寺拳法を学ぶことで生徒達がどのようなコミュニケーションをとっていくのかを見てい



きたい。また、少林寺拳法にとらわれず武道全体の教育効果を示していきたい」と述べた。

◆総合打合せ

総合打合せでは、中島正樹委員長をはじめとした各研究者で3日間の指導計画及び指導方法について協議・検討を行った。

◆指導法指導案予備講習

夕食後、指導法指導案予備講習を行った。2日目の模擬授業指導案について指導方法の確認をし、その後、資料用の映像作成に入った。実際に研究者がモデル演武を行い、タブレットPCを用いた撮影は深夜までおよんだ。



資料映像の作成風景

2日目(6月13日)

◆指導法実践研究(模擬授業)

勝浦市立勝浦中学校の生徒11名を研究協力者として迎え、指導法実践研究(模擬授業)を行った。今回は毎授業終了後にアンケートを実施し、生徒の反応を確認した。

◎1時間目(担当:向田研究者)

はじめに少林寺拳法の礼法である結手立、合掌礼、座り方・立ち方を順に行い、少林寺拳法の特

徴を説明した。その後、構え方（開足中段構え）、突き（上段・中段）、蹴り（蹴上げ）受け（内・外・上・下受け）の基本的な動作を行い、天地拳第一系を練習した。

◎2時間目（担当：小井研究者）

1時間目の復習を全員で行い、天地拳第一系の動作を確認した。続いて3グループに分かれてタブレットPCの使用方法を確認した上で、実際に演武姿をタブレットPCで撮影し、自身の演武をチェックした。生徒達は元気よく演武し、自分自身の映像を見て一喜一憂していた。最後に安座で瞑目をし、2時間目は終了となった。



◎3時間目（担当：安田研究者）

団体演武を行う為、2グループを作った。続いてプロジェクターを用いて高校生大会の団体演武（YouTubeの映像）を見せてイメージを持ってもらった上で、ルールの説明をした。その後、グループ毎に団体演武の練習を行い、撮影した映像をチェックして再び練習するというサイクルを何度か繰り返し、上達を図った。

◎4時間目（担当：高坂研究者）

昼食後、団体演武の発表にあたり、演武のポイント、評価の仕方について確認した。その後、グループ毎に最終打ち合わせをし、団体演武の発表を行った。緊張の中、皆精一杯の演武をした。続いて、プロジェクターを使い、護身術である少林寺拳法を学ぶ意義についてわかりやすく説明した。また、マイナス思考からプラス思考に転換するための物事の考え方、良好な人間関係を築いていくヒントについて、中学生が意見を出し合いながら話し合いが行われた。

◎5時間目（担当：合田研究者）

護身術としての少林寺拳法の技能に少しでも触れるという目的で、2人組で膝をついての巻き小手を行った。最初は怖がっていたが慣れてくると徐々にできるようになる生徒も見受けられた。

◆研究協議

指導法実践研究（模擬授業）の反省や成果を、各研究者より発表した。「礼法についてもう少し説明すべきだった」「相手を思いやる気持ちを

伝えていくことが大切」「機器の活用方法や活用するタイミングの想定が準備不足だった」「どこまで教えるかが難しい」「少林寺拳法独特の言葉の言い換えリストがあればもっとわかりやすかったのでは」といった意見が出た。

3日目（6月14日）

◆事例研究指導法研究

秋元研究者と高坂研究者から事例発表研究がなされた。

秋元研究者からは、主体的に授業に参加しない生徒への取り組み方や参加しているが授業の進行に支障をきたす生徒への取り組み方などが紹介された。

高坂研究者からは、マイナスからプラスへの転換について身体の効果的な活用方法の実例をもとに、いかに生徒にとってわかりやすく興味を持たせ、かつ楽しく吸収させるかについての説明がなされた。

◆閉講式

まず、(公財)日本武道館吉川英夫振興部長より「4年目を迎え、今後はさらに指導内容の充実を図る時期だ」と主催者挨拶が述べられ、続いて高坂研究者より「非常に有意義な時間を過ごせた。今後も継続して研究を続けていきたい。」との研究者講評があり、充実した3日間の全日程を無事終了した。



◇研究者

中島 正樹（富士見丘中学校・高等学校教諭）
小井 寿史（笠岡市立新吉中学校教諭）
高坂 正治（丸亀市立南中学校教諭）
合田 雅彦（愛媛県少林寺拳法連盟副理事長）
安田 智幸（金光学園中学校・高等学校教諭）
向田 弘之（禅林学園・法人広報室長）

◇少林寺拳法連盟事務局

秋元 宏介

◇日本武道館事務局

吉川 英夫 末吉 潤 石井 政利
(順不同・敬称略)